

令和5年度 認定こども園ふたば「関係者評価」

園名 認定こども園ふたば

基本理念	一人ひとりを大切に、心豊かに、たくましく生きる子どもを育成する
めざす子ども像	・自分のことは自分でする子 ・話をしっかり聞ける子 ・楽しみが見つけれられる子
重点目標	<p>0～2歳児 ①愛情豊かに、安心感・信頼感が持てる保育をする。 ②家庭と連携を密にし、基本的生活習慣の定着を図る。</p> <p>3～5歳児 ①既存的生活習慣の定着を図り、自立の基礎を育む。 ②遊びを通して、元気な体の基礎づくりをする。 ③身近な自然や人と関わり、心を揺さぶる体験活動を充実させる。（本物の体験） ④物事の善し悪しに気づき、自己抑制する力を育成する。 ⑤友達と気持ちを通わせ、互いに認め合う仲間づくりを進める。 ⑥小学校との連携を促進し、小学校への円滑な接続を図る。（学びの連続性）</p>

自己評価結果（達成状況）【A:達成している B:概ね達成している C:あまり達成していない D:達成していない】

評価の観点	評価項目（取組内容）	取り組み（達成）の状況	達成状況	改善の方策（今後について）
園運営	○職員の資質向上 ○組織体制の充実	○職員研修の充実 ・市教委主催の公開保育等の研修や、町保協の各学年研修に計画的に参加した。また、園内研修に指導主事を招聘し実のある研修会ができた。88%の保育者が自分の課題を持って研修に取り組みたと回答している。 ○チェックリストを活用し不適切保育等について学年単位で毎月話し合い、職員会議で協議内容を報告し共有した。	B	・キャリアアップ研修に年間を通じて計画的に参加できるよう調整していく。 ・園外研修での内容を全職員に還元できるように時間等の確保に努めていく。 ・不適切な保育についての話し合いや発表は次年度も継続していく。 ・一歩前へ進める気持ちを持って、日々の教育・保育にあたるよう啓発と自己研鑽に努め、資質向上を図っていく。
教育課程	○教育・保育課程の作成 ○指導計画の作成・反省並びに発達過程に応じた教育・保育 ○環境を通して行う教育・保育	○今年度、新たに目指す子ども像に「楽しみが見つけれられる子」を入れ、子どもの興味関心、探究心を重要視した。 ○年間指導計画に基づき、発達過程に応じた週案・月案を作成し、適切に評価をしてきた。100%の保育者が次への実践に繋がれたと回答している。 ○豊かな発想で遊びから学びに繋がるように、必要な材料や道具、場所を準備するようにした。	B	・自ら考えて楽しみが見つけれられるように、見守る姿勢で従来から持っている子どもの探究心を育てていく。 ・子どもの発達状況を踏まえ、チェックしながら、「今日は昨日よりも一歩前に進む」意識を持って保育にあたる。 ・廊下等に制作材料等、いつでも使える環境づくりに努め、探求心を育てていく。
子育て支援	○親子の育ち合いの場としての役割や機能の充実 ・すくすくひろば開設、子育て相談、講座等の開設	○「すくすくひろば」を当初の計画通り実施し、目標日数分実施できた。 ・よい子ネット登録等により、園内での子どもたちの様子を啓発できた。また、おすすめレシピや絵本、親子遊び等を情報提供した。 ・子育てについて相談を受け、利用者の100%が不安や悩みを相談できたと回答している。 ・外部講師等による子育て講座を実施した。	B	・コロナ禍で園行事への参加を制限してきたが、クリスマス会などのイベントに参加し、園での子どもの活動等の理解を深めていきたい。 ・氷上地域内の「すくすくひろば」の交流を活性化していきたい。 ・よい子ネットへの登録を推奨し、給食レシピや子育て支援など内容を積極的に情報提供していく。 ・子育て支援のため、今後も外部講師を積極的に招聘していく。
安全管理	○園舎の安全、安心確保 ・園舎や遊具の安全点検及び管理 ○職員の危機管理能力の向上 ・防災訓練の実施 ○交通安全指導の推進 ○健康観察、健康診断、歯科検診の実施 ○安全、衛生管理（給食）	○毎月役割分担をし、園内のチェック項目に従い安全点検をしている。2年毎に専門業者による遊具点検をしている。また毎月避難訓練（火事・地震・不審者・水害）を実施し、あらゆる時間帯を想定し、避難経路を臨機応変に変更している。また、消防本部の署員を招聘し総合避難訓練を年1回実施している。 ○警察、交通指導員による歩行訓練等交通安全教室を年1回実施している。 ○毎朝健康チェック（検温等）を実施している。嘱託医による年2回園児健康診断及び年1回歯科検診を行った。その結果を保護者に報告している。 ○調理員全員が「調理室の環境を適切な状態に保持し、常に設備や用具等の衛生管理に努めている」と自己評価しており、安全管理に努めている。	B	・新たに園庭東側に設置した避難戸を活用した避難訓練を実施していく。 ・安全点検やヒヤリハット報告書を職朝や職員会議で共有し、保育者全員の共通理解を図り、事故防止に努めるとともに、職員の危機管理意識を一層高めていく。 ・保育者の自己評価では「同僚・上司への報告・連絡・相談をしている」項目で5%が「どちらかというとそうは思わない」と回答している。「報告・連絡・相談」を徹底していく。 ・感染症拡大を防ぐため、よい子ネット等で毎日感染状況を伝えたり、予防対策、健康管理について保健だよりで啓発していく。 ・新たに導入したICカードが必要な電子錠で不審者侵入防止対策を強化する。 ・アレルギー対策を含め安全安心な給食を提供するため、給食運営委員会を引き続き定期的に開催していく。
教育・特別支援	○一人ひとりの特性や発達課題に応じた支援計画の作成と実施 ○専門機関、教育機関との連携 ○途切れない支援の推進 ・家庭との連携 ・小学校との連携	○一人ひとりの特性や発達課題を特別支援コーディネーターを中心に把握し、個に合った個別の指導計画を作成し、個に寄り添った支援をしている。99%の保育者が個々のニーズに寄り添った支援に努めていると自己評価している。 ○市の心理士や保健師による巡回相談や市教委の相談員の訪問で支援の仕方等の指導を受けている。 ○特別支援教育研修会に積極的に参加している。 ○保護者との共通理解を図るための懇談会を実施している。 ○小学校との連携として、小学校の教員の園訪問や小学校教員による相談会を実施している。	A	・個別の指導計画を学期ごとに評価し、適切な支援になるよう見直ししていく。 ・市の支援センター職員、療育施設職員、市教委の相談員と連携を一層図り、子どもの困り感をなくす教育・保育に心掛けていく。 ・個別の指導計画やサポートファイルの作成にあたっては、保護者理解が得られるよう、積極的に相談できる機会を設定していく。 ・小学校の特別支援教育について園と小学校と家庭とが理解を深め、安心して学校生活が送れるよう相談体制を構築していく。
他校・家庭との地域連携	○信頼される園づくり ・情報の発信・受信 ・園行事への積極的な参加の推進 ○小学校との連携 ・互いの学びの場となる計画的な交流 ○地域とのつながり	○信頼される園づくりに向けた情報発信 ・保護者アンケートの「園は、教育・保育方針や子どもの様子などについて情報発信と受信に努めている」では、「そう思う」が86%、「どちらかというとそう思う」が14%と回答されており、情報発信に高い評価を得ている。 ・祖父母参観や発表会など子どもの成長ぶりを参観してもらえよう、年間計画に位置づけ実施している。 ○小学校とのスムーズな接続への取組 ・園や小学校に相互に参観し合ったり、園小連絡会を実施し、教育保育の理解を深め、小学校へのスムーズな接続に努めている。また、小学生との交流会を年間2回したり、学校行事に参加している。 ○地域の豊かな自然とともに ・地域の豊かな自然に触れるため、地域のお寺や神社、山、公園に園外保育を行い五感を養っている。	B	・園運営の理解には、園情報の発信が効果的と考え、毎日よい子ネットを更新し、日々の子ども活動や教育保育方針等、幅広く提供していく。 ・行事に対する感想や年2回（7月、1月）の保護者アンケートを踏まえ園運営の改善に努めていく。アンケート回収率95%を目指していく。 ・遊びから学びへと円滑に接続できるよう、更に園と学校の連携を深め、アプローチプログラム（園）とスタートカリキュラム（小学校）の改善を図っていく。今後も継続して保育者と2小学校の教員による合同研修会を実施していく。 ・コロナ禍になってから実施できなかったデイサービスを利用している高齢者との交流会が再開できるように努めていく。 ・引き続き、氷上町福祉会ふたば担当理事との連絡会を月1回実施し、園の様子（職員・園児）や取組について報告し助言を求めていく。

こども園関係者評価（こども園関係者評価委員より）

- ・不適切な保育が報道されてきているが、毎月人権擁護のためのセルフチェックをし、振り返りをされていることはとても大切な研修になっている。また、研修時間の確保に向けて、より多くの保育者が参加できる体制づくりに努めてほしい。
- ・「明日は今日よりも一歩前に進む教育・保育」はとても良いキャッチフレーズである。意識をもって保育にあたるのが大切である。
- ・子どもが楽しみを見つけれられるように、環境づくりをするとともに、指導計画に基づいて保育にあたられていることがよく理解できた。
- ・職員アンケートで調理員全員が衛生管理、安全管理に十分留意されていることが分かる。食べ物が喉に詰まって命を落とす事故があったが、特に食べ物に関して安全管理の徹底をお願いしたい。
- ・よい子ネット等で小学校との交流内容を知り、園と小学校の連携がなぜ必要なのか理解できた。今後とも繋がりを大切にしたい。
- ・送迎において園に入るまでは保護者の責任である。子どもだけでなく、保護者を対象にした交通安全教室も意義あることである。
- ・保護者の声や取組内容からもっとAという評価があってもいいと思う。

<こども園関係者評価を受けての次年度の改善の方向性について>

- ・安全・安心な園づくりを基盤に、参観日等を利用し、保護者への安全教育などの啓発活動に努めていく。特に命に係わる給食に関しては、誤嚥やアナフラキシーなど大きな事故に繋がらないよう、チームとしてチェック体制を充実させていく。
- ・よい子ネット等での情報発信はかなり高い評価を受けており、引き続き園生活の様子や運営方針など積極的に園情報を発信していく。
- ・人権擁護について保育者同士の話し合いの時間を確保し適切な保育に努め、更に保護者や地域社会から信頼される園を目指していく。

令和6年3月31日

園名 認定こども園ふたば
園長名 足立辰馬

